与謝野町公共施設白書 施設カテゴリー編



消防防災施設

13 消防防災施設

その1 施設の概要

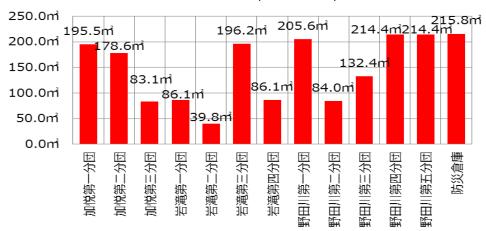
消防防災施設は、主に消防署とは別に設置されています非常備消防組織である「与謝野町消防団」が活動拠点としている消防団車庫(詰所)と、町の防災備蓄を目的に設置された防災倉庫です。消防団車庫は合併前の旧町時代から消防団の分団数に変更がありませんので、そのまま使用しています。加悦地域には3つの分団がありますので3つ、岩滝地域には4つの分団がありますので4つ、野田川地域には5つの分団がありますので5つ設置されていて、合計12です。

一方、防災倉庫は町の防災備品や災害時の備蓄食料などの倉庫で、与謝野町役場に隣接して建てられています。このカテゴリーで主に説明しますのは消防車庫になります。

【消防防災施設一覧】

施設名	武士地	面積(㎡)		建筑左	運営形態	
加电双石	所在地	敷地	延床	建築年	连古沙思	
加悦第一分団消防車庫	算所18、19、20、20の1番地	303.8m²	195.5m²	S55	直営	
加悦第二分団消防車庫	滝467番地の2	535.0m ²	178.6m²	H22	直営	
加悦第三分団消防車庫	明石2353番地	707.0m²	83.1m ²	S53	直営	
岩滝第一分団消防車庫	弓木923の1番地	323.2m²	86.1m	Н8	直営	
岩滝第二分団消防車庫	弓木1975の1番地	58.5m²	39.8m²	Н3	直営	
岩滝第三分団消防車庫	岩滝1791の4番地	144.3m ²	196.2m	S59	直営	
岩滝第四分団消防車庫	男山209の6番地	156.0m ²	86.1m	H6	直営	
野田川第一分団消防車庫	三河内1570番地2	466.7m²	205.6m	H12	直営	
野田川第二分団消防車庫	岩屋303番地1	144.8m ²	84.0m ²	S54	直営	
野田川第三分団消防車庫	四辻65番地	223.9m²	132.4m ²	H11	直営	
野田川第四分団消防車庫	下山田393番地1	2,480.5m ²	214.4m	H10	直営	
野田川第五分団消防車庫	石川5602番地	562.3m ²	214.4m²	H7	直営	
防災倉庫	岩滝2048番地	520.7m ²	215.8m²	H17	直営	





消防車庫の規模を延床面積で比較しますとばらつきが出てきます。建物構造が様々であることが理由ですが、近年整備された消防車庫は、1階が車庫、2階が詰所となっています。岩滝第2分団の消防車庫は車庫のみで詰所は隣接する弓木地区公民館を利用しています。

【施設位置図】



消防車庫の位置ですが、岩滝地域以外の加悦地域、野田川地域は小学校区に1つ整備されています。そのため町域の半分以上を占める加悦地域では他地域よりも1つの分団の受け持つ範囲が広くなっています。消防団では地域を越えた応援出動体制で消防力強化に努めています。

① 与謝野町消防団各分団の担当区域と団員数

各分団の担当区域と実団員数はご覧のとおりです。施設の説明が先になりましたが、消防施設のカテゴリーをご理解いただくための参考としてください。

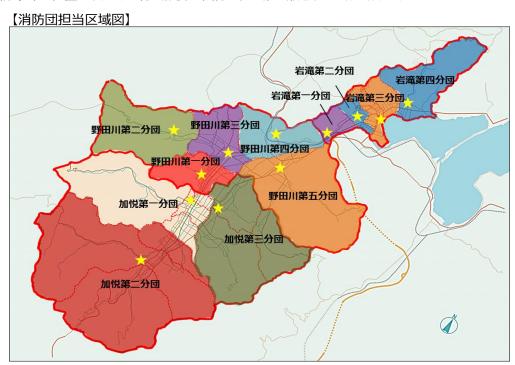
与謝野町消防団は消防団本部と旧町単位に設置された各方面隊があります。各方面隊の下に実際に防 火活動に従事する分団が設置されています。各分団の担当区域と団員数は以下のとおりです。

【各分団の担当区域と団員数(面積合計は小数点 2 位を四捨五入する関係で 108.3k ㎡になります)】

方面隊	分団名	担当区域	担当区域面積	実団員数
	加悦第一分団	算所、加悦奥、加悦、後野	13.5km²	45人
加悦方面隊	加悦第二分団	与謝、滝、金屋	31.2km²	30人
	加悦第三分団	温江、明石、香河	14.4km²	30人
	岩滝第一分団	石田	1.4km²	12人
岩滝方面隊	岩滝第二分団	弓木	1.4km²	15人
石甩刀囬隊	岩滝第三分団	岩滝	3.2km²	20人
	岩滝第四分団	男山	7.4km²	14人
	野田川第一分団	三河内	2.9km²	30人
	野田川第二分団	岩屋	9.7km²	31人
野田川方面隊	野田川第三分団	市場	4.8km	40人
	野田川第四分団	山田	4.7km²	30人
	野田川第五分団	石川	13.8km	33人
		合計	108.3km²	330人

[※]団員数は平成26年4月1日現在です。

先ほどの施設位置図と重複する部分もありますが、担当区域を図示すると以下のとおりです。 黄色の星印は消防車庫の位置になります。 特に加悦方面隊の担当区域が広いことがわかります。

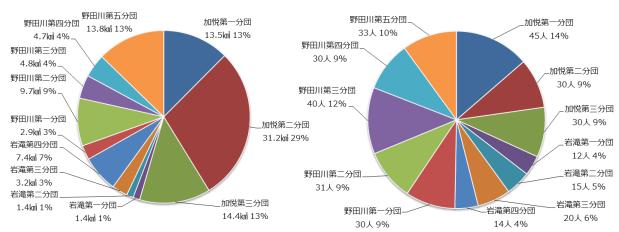


【参考:方面隊ごとの区域と団員数(面積合計は小数点2位を四捨五入する関係で108.3k mになります)】

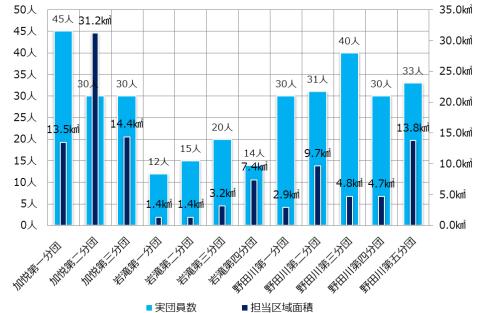
地 域	車庫·分団 配置数	面積	団員数
加悦方面隊	3	59.1km²	105人
岩滝方面隊	4	13.4km²	61人
野田川方面隊	5	35.9km²	164人
合計	12	108.3km	330人

【各分団の担当区域割合グラフ】

【各分団の団員数割合グラフ】



【各分団の担当区域・団員数複合グラフ】



各分団の担当区域の割合をグラフで示すと加悦方面隊の割合が大きくなっています。加悦方面隊だけで 55%にもなります。特に加悦第二分団の山林面積が大きいことが理由です。

団員数では野田川方面隊が 164 人と最も多く、次いで加悦方面隊の 105 人、岩滝方面隊の 61 人となっています。

② 施設外観 (消防車庫)



加悦第一分団消防車庫







岩滝第一分団消防車庫



岩滝第二分団消防車庫



岩滝第三分団消防車庫



岩滝第四分団消防車庫



野田川第一分団消防車庫



野田川第二分団消防車



野田川第三分団消防車庫



野田川第四分団消防車庫



野田川第五分団消防車

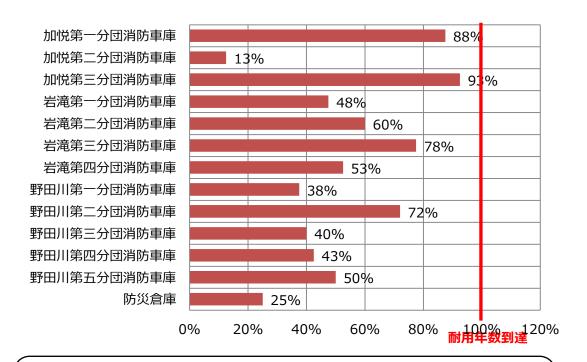
その2 施設の物理的状況

① 老朽化の状況

【消防防災施設老朽化一覧】

施設名	構造		ᄍᅼᆖᄱ		
心或石	押 足	建築年	耐用年数到達	老朽化率	耐震性
加悦第一分団消防車庫	鉄骨造2階建	S55	H32	88%	有
加悦第二分団消防車庫	鉄骨造2階建	H22	H62	13%	有
加悦第三分団消防車庫	鉄骨造1階建	S53	H29	93%	無
岩滝第一分団消防車庫	鉄骨造2階建	Н8	H48	48%	有
岩滝第二分団消防車庫	鉄骨造1階建	Н3	H43	60%	有
岩滝第三分団消防車庫	鉄骨造2階建	S59	H36	78%	有
岩滝第四分団消防車庫	鉄骨造2階建	Н6	H46	53%	有
野田川第一分団消防車庫	鉄骨造2階建	H12	H52	38%	有
野田川第二分団消防車庫	鉄筋コンクリート造 2 階建	S54	H41	72%	有
野田川第三分団消防車庫	鉄骨造2階建	H11	H51	40%	有
野田川第四分団消防車庫	鉄骨造2階建	H10	H50	43%	有
野田川第五分団消防車庫	鉄骨造2階建	H7	H47	50%	有
防災倉庫	鉄骨造2階建	H17	H57	25%	有

- ※耐用年数は鉄骨造40年、鉄筋コンクリート造50年を想定しています。
- ※老朽化率は (経過年数/耐用年数)で算出しています。100%以上は耐用年数超過となります。



消防車庫については加悦第三分団車庫、岩滝第三分団車庫、野田川第二分団車庫が特に古く、老朽化が進んでいます。その他の消防車庫については近年整備されたものが多い状況です (加悦第一分団車庫は平成 23 年度に大規模改修を実施しています)。

② 設備 (車両)

【消防防災施設設備一覧】

施設名	車別	車種	年式	購入費 (千円)	更新予定
	指揮司令車	日産 アトラス	H17.3	0	未定
加松等一八日沙吠市床	水槽付消防ポンプ自動車	日野 レンジャー	H16.11	23,310	未定
加悦第一分団消防車庫	小型動力ポンプ付積載車	トヨタ ダイナ	H9.9	4,179	H26に更新済み
	多機能型小型動力ポンプ付積載車	いすゞ	H22.9	0	未定
加悦第二分団消防車庫	消防ポンプ自動車	三菱 キャンター	H20.10	17,535	未定
加风免—刀凹舟则半净	小型動力ポンプ付積載車	トヨタ ダイナ	H19.3	6,563	未定
加悦第三分団消防車庫	消防ポンプ自動車	三菱 キャンター	H14.12	14,910	未定
加风免二刀凹内的手件	小型動力ポンプ付積載車	トヨタ ダイナ	H19.3	6,615	未定
岩滝第一分団消防車庫	消防ポンプ自動車	日野 デュトロ	H26.3	12,360	未定
岩滝第二分団消防車庫	消防ポンプ自動車	三菱 キャンター	H14.11	13,650	未定
岩滝第三分団消防車庫	水槽付消防ポンプ自動車	日野 レンジャー	H16.3	23,310	未定
石	小型動力ポンプ付積載車	日産 アトラス	H10.3	4,179	H26に更新済み
岩滝第四分団消防車庫	消防ポンプ自動車	日野 デュトロ	H13.10	13,650	H28
野田川第一分団消防車庫	消防ポンプ自動車	日野 スペースレンジャー	H12.9	20,000	H27
野田川第二分団消防車庫	消防ポンプ自動車	日野 デュトロ	H25.3	15,035	未定
131四川第二刀凹/月刚半净	小型動力ポンプ付積載車	トヨタ ダイナ	H9.11	6,700	H26に更新済み
野田川第三分団消防車庫	水槽付消防ポンプ自動車	三菱 ファイター	H13.11	24,900	H29
野田川第四分田沿院市庫	消防ポンプ自動車	日野 デュトロ	H23.9	18,039	未定
野田川第四分団消防車庫	小型動力ポンプ付積載車	日産 アトラス	H15.9	6,857	未定
	消防ポンプ自動車	日野 デュトロ	H22.1	17,500	未定
野田川第五分団消防車庫	小型動力ポンプ付積載車	三菱 キャンター	H14.12	6,900	未定
防災倉庫	司令車	トヨタ サーフ	H18.2	0	未定

[※]購入費0は消防庁や日本消防協会等から贈与または貸与された車両です。

③防災に関する状況

【消防防災施設防災状況】

	避難克	所指定	警戒区域の指定			
施設名	水害	地震	浸水想定区域	土砂災害(特別)警戒区域		
	小吉	地辰	· 凌小忠定区域	急傾斜地の崩壊	土石流	
加悦第一分団消防車庫	I	1	_	ı	_	
加悦第二分団消防車庫	ı	1	_	1	_	
加悦第三分団消防車庫	1	_		_	_	
岩滝第一分団消防車庫	1	_	_	_	警戒区域内	
岩滝第二分団消防車庫	1	_	_	_	_	
岩滝第三分団消防車庫	-	_	0.5m未満	_	_	
岩滝第四分団消防車庫	1	_	_	_	_	
野田川第一分団消防車庫	_	_	_	_	_	
野田川第二分団消防車庫	-	_	_	_	_	
野田川第三分団消防車庫	1	_	_	_	_	
野田川第四分団消防車庫	_	_			警戒区域内	
野田川第五分団消防車庫	_	_	0.5~3.0m未満	_	_	
防災倉庫	_	_	0.5m未満			

その3 施設の利用状況(消防団員の状況)

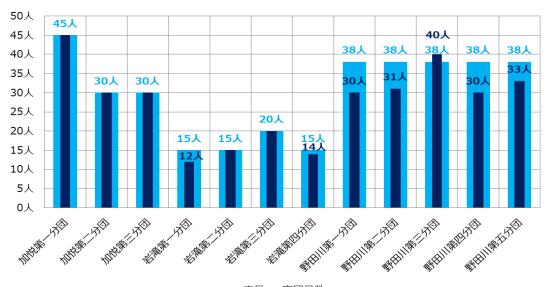
防災倉庫を除く消防防災施設を活用するのは消防団です。その消防団員の状況をみてみましょう。

【消防防災施設設備一覧】

1/月份1份190000000000000000000000000000000000					
施設名	定員	実団員数	不足数	充足率	
加悦第一分団	45人	45人	0人	100%	
加悦第二分団	30人	30人	0人	100%	
加悦第三分団	30人	30人	0人	100%	
岩滝第一分団	15人	12人	3人	80%	
岩滝第二分団	15人	15人	0人	100%	
岩滝第三分団	20人	20人	0人	100%	
岩滝第四分団	15人	14人	1人	93%	
野田川第一分団	38人	30人	8人	79%	
野田川第二分団	38人	31人	7人	82%	
野田川第三分団	38人	40人	-2人	105%	
野田川第四分団	38人	30人	8人	79%	
野田川第五分団	38人	33人	5人	87%	
合計	360人	330人	30人	92%	

各分団の実団 員数と基準となる定員数で比較の分団も人力での努力をして、概ね充足していますが、下田川方面でいた。 かや定数に満たない状況があります。

【各分団の団員数グラフ(平成 26 年度)】



■定員 ■実団員数

その4 コスト状況

① 管理・運営コスト

現在の消防防災施設に係る年間の管理・運営コストは以下のとおりです。

【消防防災施設管理・運営コスト一覧】

(単位:千円)

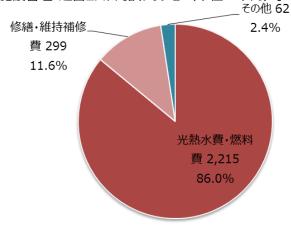
【消防防災施設官理·連盟	ュースト一見			(単位:十円)
項目	加悦一車庫	加悦二車庫	加悦三車庫	岩滝一車庫
賃金	0	0	0	0
光熱水費·燃料費	145	153	123	89
通信料・手数料	0	0	0	0
使用料・賃借料	0	0	0	0
消耗品費	0	0	0	0
備品購入費	0	0	0	0
賄·医薬材料費	0	0	0	0
修繕・維持補修費	5	51	13	0
委託料	0	0	0	0
指定管理料	0	0	0	0
その他	4	6	1	2
合計	154	210	137	91
項目	岩滝二車庫	岩滝三車庫	岩滝四車庫	野田川一車庫
賃金	0	0	0	0
光熱水費·燃料費	53	163	135	282
通信料・手数料	0	0	0	0
使用料・賃借料	0	0	0	0
消耗品費	0	0	0	0
備品購入費	0	0	0	0
賄·医薬材料費	0	0	0	0
修繕・維持補修費	0	58	75	3
委託料	0	0	0	0
指定管理料	0	0	0	0
その他	1	4	2	14
合計	54	225	212	299
項目	野田川二車庫	野田川三車庫	野田川四車庫	野田川五車庫
賃金	0	0	0	0
光熱水費・燃料費	243	244	281	255
通信料・手数料	0	0	0	0
使用料・賃借料	0	0	0	0
消耗品費	0	0	0	0
備品購入費	0	0	0	0
賄·医薬材料費	0	0	0	0
修繕·維持補修費	26	0	32	36
委託料	0	0	0	0
指定管理料	0	0	0	0
その他	0	12	6	5
合計	269	256	319	296
	— — — — — — — — — — — — — — — — — —			

[※]金額は平成25年度の実績額です。

		· (単位:千円)
項目	防災倉庫	合計
賃金	0	0
光熱水費·燃料費	49	2,215
通信料・手数料	0	0
使用料・賃借料	0	0
消耗品費	0	0
備品購入費	0	0
賄·医薬材料費	0	0
修繕・維持補修費	0	299
委託料	0	0
指定管理料	0	0
その他	5	62
合計	54	2,576

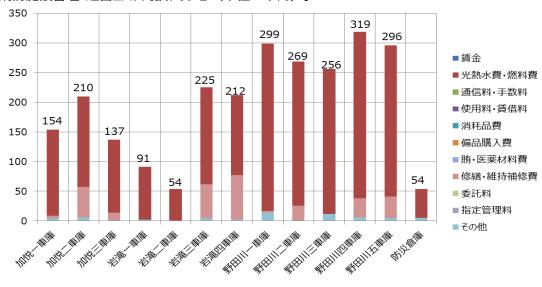
[※]平成25年度実績です。

【消防施設管理・運営コスト内訳グラフ①(単位:千円)】



消防施設の主な経費は光熱水費です。その他の経費として火災保険料などがあり、最低限の維持費で運営されています。

【消防施設管理・運営コスト内訳グラフ②(単位:千円)】



② 整備コスト (建替え・解体コスト)

【整備時期の考え方】

- ☆耐用年数到達年に同等施設(同じ延床面積)に建替え。
- ☆耐用年数経過している建物は5年以内に同等施設(同じ延床面積)に建替え。
- ☆建替える必要性がないと考えられる建物は耐用年数到達年に解体 (耐用年数が既に到来している場合は5年以内に解体)
- ☆消防団の再編等の未確定要素は考慮せず、現状を維持した場合のコストです。

【コストの考え方】

建替えコストは総務省明示のコストを参考に単価を設定しました。

- ○建替えコスト・・・36万円/㎡ (解体費含む:その他施設)
- ○解体コスト・・・3 万円/㎡

これらの単価に現在の延床面積を乗じて算出したコストは以下のとおりです。

【消防防災施設整備等コスト一覧】

(単位:千円)

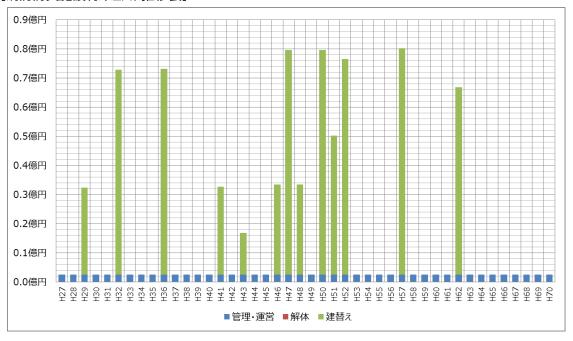
(,							
		耐用		3	建替え		解体
施設名	建築年	年数	当初建設費	実施年度	コスト (解体費含む)	実施年度	コスト
加悦第一分団消防車庫	S55	40年	11,950	H32	70,373	参考	5,864
加悦第二分団消防車庫	H22	40年	43,407	H62	64,296	参考	5,358
加悦第三分団消防車庫	S53	40年	3,400	H29	29,933	参考	2,494
岩滝第一分団消防車庫	H8	40年	17,784	H48	31,010	参考	2,584
岩滝第二分団消防車庫	Н3	40年	4,167	H43	14,310	参考	1,193
岩滝第三分団消防車庫	S59	40年	27,207	H36	70,614	参考	5,885
岩滝第四分団消防車庫	H6	40年	22,617	H46	31,010	参考	2,584
野田川第一分団消防車庫	H12	40年	_	H52	74,023	参考	6,169
野田川第二分団消防車庫	S54	50年	9,124	H41	30,240	参考	2,520
野田川第三分団消防車庫	H11	40年	_	H51	47,664	参考	3,972
野田川第四分団消防車庫	H10	40年	42,007	H50	77,184	参考	6,432
野田川第五分団消防車庫	H7	40年	72,711	H47	77,184	参考	6,432
防災倉庫	H17	40年	34,650	H57	77,695	参考	6,475
				合計	695,536	合計	57,962

※解体コストは参考です。

※野田川第一分団消防車庫、野田川第三分団消防車庫の当初建設費は、併設する施設との分別ができないので空欄にしています。

平成 70 年頃まで(実際は平成 62 年頃)に全ての消防車庫等を建替えた場合、総費用は約 7 億円になります。管理・運営コスト(平成 25 年度実績をベースに横置き)も含めた将来コストの推移は以下のとおりです。

【消防防災施設将来コスト推移表】



コスト総額約8.1億円(整備約7億円、解体0億円、管理・運営1.1億円)

【消防防災施設将来コスト内訳グラフ(単位:千円)】



その5 まとめ

1 現状・課題

●利用状況

消防防災施設というカテゴリーにおいて、利用者数や利用頻度という考え方は妥当ではないため、実際に

施設を利用する消防団の現状についてお示ししました。消防団員は全国的に団員不足が叫ばれる中で、各分団の努力によって団員数確保ができている状況です。しかしながら実情としては団員のサラリーマン化が進んでおり、平日の日中に担当区域にいる団員が乏しい現状もあります。少なくとも平日の日中に町内で働いている団員の割合は55.1%で約半数程度となっており、分団によっては平日の日中に担当区域で働く団員が5人以下となる場合もあります。消防団ではそのような現状を踏まえ、消防団員でもある役場職員に勤務先の地域で火災が発生した場合、消火活動の補助を担わせるなどの対策を行っています。

●老朽化状況

消防車庫については、老朽化率が 60%を超えている建物が 5 施設あります。その中でも加悦第三分団 消防車庫については老朽化率が 93%まで進んでおり、すでに建替えの方針があります。

●防災状況

一部の施設で土砂災害の警戒区域や浸水区域に指定されています。

●コスト状況

施設全体の管理・運営コストは光熱水費、建物保険料、修繕料などの最低限なものに限られています。 その他に消防団の活動にかかる経費がありますが、ここでは計上していません。

今後の整備にかかるコストですが、全ての消防車庫等を建替えると平成 62 年度までに約 8 億円かかる 見込みです。

その他に 1 台 6 百万円~3 千万円という車両整備コストが毎年かかる等、施設自体の維持の他に消防団活動にかかるコストは大きいですが、地域の安心・安全を最前線で担う役割は大きく、消防団活動には交付税措置がある等、国の施策においても重要な位置づけにあることが分かります。

2 今後の展望

●消防団の再編について

今後の消防団の再編が、消防防災施設の整備等に大きな影響を与えます。将来の与謝野町の消防 防災体制のあり方について、今後の人口推移等を見据えて、消防団の再編等の検討を進めていく必要が あります。